

AFTERNOON TEA

何気ない毎日

福岡大学薬学部臨床疾患薬理学教室

桂林秀太郎

西南女学院大学の岡部明仁先生からバトンを引き継ぎました。福岡大学薬学部の桂林秀太郎と申します。私の先輩である岡部さんとは、正直どこでどう知り合ったか覚えていません。同じ大分県生まれで、留学先はドイツという共通点があるくらいです。ちなみに岡部さんがドイツに引っ越してきたのと入れ違いで私はアメリカに引っ越しましたので、異国での接点もありません。それでもいつからか、お互いの近況を常に連絡しているような仲です。

今回の打診があった時、「また来たなっ」と思いました。というのも、10年以上前に日本生理学雑誌 Hello PSJ を執筆した時も、確か岡部さんからバトンを受け取った記憶があったからです。しかし「先輩が言う事は絶対！」という体育会系の精神で育てられた私にとって、岡部さんの命令は絶対です。どんなバトンだって受け取ります。

というわけで、本題に入ります。今般、学会等で男女共同参画のセッションを拝聴すると、様々なライフスタイルを知ることができます。そこで本稿では、私の育児の例を紹介したいと思います。私の、何気ない毎日の話です。

2007年に第1子（長女）を授かって以来、午後7時すぎには帰宅しているように心掛けています。よってラボを退室する目標時刻は、午後6時半です。2010年に第2子（次女）を授かった時、嫁曰く「午後5時頃をピークに忙しいから、7時ごろに帰って来ても大して役に立たない」と言われたことがあります（「いないよりはマシだけど」ってフォロー有り）。その頃の妻は専業主婦でして、24時間の育児生活に疲れ果てて夕食が作れないことも多々ありました。そんな妻を気遣い、いつからか「今日は晩御飯ある？」って電話で確認し

てから帰宅することが習慣になりました。家に何も無い時は、帰宅途中にスーパーに寄って食材や惣菜を買って帰ります。そして家族の夕食を私が準備します。毎日の夕食の献立を考えるのって結構大変です。家に帰れば飯があるのを当然と思っただけじゃありません。いつも妻のご機嫌を伺いながら、時には洗濯物をたたみ、食器を洗い、子供たちを寝かしつけます。この様に、いつ共働きになってもそれなりに対処できるよう、一通りの訓練はできているつもりです。

子供が寝てから自分の時間ですが、一緒にそのまま寝てしまうこともしばしば。妻やママ友連中からは、とても働き盛りの40代の社会人とは思えない就寝時刻だと感心されます。そして睡眠を十分に確保できた私は朝一番に起き、全員を起こします。基本的に子供たちの朝食準備は私が担当ですが、時々妻も手伝ってくれます。そして子供たちの登校を見送ってから朝刊を読み、8時過ぎに家を出ます。ある朝、夕飯で残っていたメンチカツを使ってホットサンドを作ってみました。意外と好評でした。何気ない毎日から、自分の成長を感じました。残念ながら、“ごはん派”の次女は食べてくれませんでした。...

そんな子供たちも、今は小学生です。少しずつですが子供たちは身の回りのことを自分でしてくれるようになったので、家事が楽になりました。何気ない毎日から、子供たちの成長を感じます。今年になって、「次女も小学2年生になるし、4月になったらパートでも始めようかなあ〜」と、妻がつぶやきました。何気ない毎日から、妻の成長を感じました。ところが4月になって小学校のバザー委員の三役補佐になったらしく、今はバイトどころではない忙しさだそうです。...でも大

丈夫、大体の訓練はできています。

こんな毎日です。今の私は不夜城的なラボ生活とは無縁の生活ですが、独身だった大学院時代は夜11時半に“教授回診”があり、その時に実験していなかったら翌朝9時半に説教部屋(教授室)に呼び出される生活をしていました。基本的に平日は夜12時くらいまで実験していましたし、それから飲みに行ったりもしました。もちろん教授がいない夜は、夕方からハッピーアワーです。ちなみに当時のラボでいう平日とは、「月月火水木金金」です(ブラックマンデーは2日間ありますが、プレミアムフライデーが2日間あるという意味ではありません)。時には徹夜の実験もありました。ストレスで急性胃炎を患って吐血したこともありました。そもそも雇用されているわけではないので、今でいう「ブラックアルバイト」ではありません。修行の身として、何とか博士課程の4年間を頑張った(耐えた)おかげで、相応の研究業績を残せましたし、それが次のステップに繋がったと信じています。一方で、意外と先生がラボにいない方がラボメンバーは自由でハッピーであることも学びました。また大学院とポストドク時代には、実験でも何でも挑戦した分だけ、人生の選択肢が増えることも学びました。今の生活をしていて、もっ

ともっと実験を頑張らなくてはとは思いますが。しかしポストドクや院生のためにも、早めに帰宅しなくてはいけないのです。何より今しかない我が子の幼少期、特に「何気ない毎日」を一緒に過ごす時間が今は大事です。その時間を与えてくれるボスやラボメンバー、そして家族に感謝しています。

今回、私の日常を紹介しました。数年後、子供たちが中学生ぐらいになって、「お父さん、あっち行けー」とか、「お父さん、臭い!」とか、「洗濯物は一緒にしないで!」とか言われるのでしょうか。そして週末は子供たちの部活が忙しくなって、一緒に遊んでくれなくなるのでしょうか。一緒に食事すらしてくれないかもしれません。「最近どうね?」って訊いても「別にいい」とか「何で答えないかんと?」とか「知らん!」とか言われるのかもしれませんが。いや、何かしら応答があるだけマシかもしれません。でも大丈夫、家に居場所が無くなったなら、ラボ生活をします。そして夜11時半に“准教授回診”をやってみます。

文末にこんなことを無理やり書いてみたら、何だか切なくなってきました。...今日はいつもより少し早く帰ろうかな。次のバトンは、明日にでも渡します。



研究者への道

富山大学大学院医学薬学研究部システム情動科学講座

坪島 功幸

名古屋大学環境医学研究所神経系分野IIの若月康次先生よりバトンを頂きました。富山大学大学院医学薬学研究部システム情動科学講座に在籍しております大学院生(博士課程)の坪島功幸と申します。

若月先生と私は、田口徹先生(新潟医療福祉大学教授)が作られた筋痛グループのメンバーであり、他にも、太田大樹先生(帝京大学助教)や宮

原謙一郎さん(同研究室大学院生)がいます。それぞれ研究室が、新潟、名古屋、宇都宮、富山と別々で離れておりますが、実験報告や情報共有をメール等でほぼ毎日行っており、週に1回はみんなでスカイプミーティングを行っております。先日も若月先生が名古屋から当研究室まで来られ、直接実験手法を教えてくださいました。

私は柔道整復師という、骨・関節・筋・腱・靭



塩川研究室
筆者後列右から3人目（2014年）



西条研究室
筆者前列一番左（2016年）

図．研究室の先生方やメンバー

帯などに加わる急性、亜急性の原因によって発生する骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷などの外傷に対し、手術をしない「非観血的療法」によって、整復・固定・後療などの治療を行うことができるコメディカル職種です。国家資格取得後より、大学院で研究しながら大学の付属接骨院で勤務し、頸部や腰部等に痛みを訴える患者様へ物理療法や徒手療法にて施術をしておりました。

話は変わりますが、私と研究は高校生の頃から始まりました。出身高校は、1年生の頃から学外での実習や筑波での研修、課題研究など大学や研究所での研究に触れる機会が多く、研究の楽しさを学ぶことが出来ました。高校卒業後は、柔道整復師を養成する大学に入学し、卒業研究と大学院修士課程では塩川光一郎先生（東京大学名誉教授、現帝京大学客員教授）の研究室でアフリカツメガエルの初期胚を用いて、物理的刺激（温熱、寒冷等）の効果を発生学的・形態学的に研究させて頂きました。また、塩川先生からは研究の重要性を学ばせて頂きました。

現在は西条寿夫先生（富山大学大学院教授）の

研究室で、ラットやマウスを用いて筋痛のメカニズムや治療法について研究させて頂いております。博士課程入学から1年半は、浦川将先生（現広島大学教授）の下で遅発性筋痛モデルにおける伸張性収縮中及び温熱・寒冷刺激中の筋肉内変化をNIRS等の機器を用いて調べました。浦川先生が異動されてからは、田口先生の下で、ラット・マウスにおける遅発性筋痛モデルや線維筋痛症モデルを用いた研究をさせて頂き、学位取得するため日々研究に励んでおります。

現在、昼間は接骨院や機能訓練型デイサービスで働いており、運動器に痛みを訴えておられる患者様やお客様のために運動療法や徒手療法等を行い、痛みを少しでも改善して頂けるように日々努力しております。運動器に痛みを訴えておられる方々のために、今行っている研究成果で少しでも役に立てるよう頑張りたいです。

また、私は小学1年生の頃から柔道をやっておりました（小中学生の時の大会では、富山市で1位、富山県では3位になりました）。柔道には投げ技、固め技（抑込み）等がありますが、中でも「基

本」の受け身が一番大事となります（柔道は礼に始まり礼に終わる、礼儀を重んじる武道（スポーツ）なので、礼儀も大切です）。これは研究にも言えることだと思います。研究も柔道同様、「基本（基礎）」を大事にして、今後の「研究道」を一步步ずつ着実に進んでいきたいと思っています。

今までたくさんの先生方にお世話になり、今の自分があります。研究を始めてまだ間もないですが、まずは学位を自信持って取れるよう、これから日々の実験に一生懸命に取り組んでいきたいです。皆様、これからよろしく願いいたします。



学会へ行け！？

藤田保健衛生大学医療科学部

武田湖太郎

広報編集委員の東洋大学 堀内城司先生よりバトンをいただきました。堀内先生とは、数年前より村山医療センター 岡田泰昌先生が進める呼吸生理に関する研究にてご一緒させていただいています。かつて、約15年前に私が訪問研修生として防衛医科大学校 生理学第一講座 福田潤先生の元で学ばせていただいていた頃、堀内先生は向かいの部屋（第二生理）に在籍されていたと聞き、世の中の狭さを実感しています。

私は慶應義塾大学理工学部の出身で、大学院在学時に福田先生の生理学講座へ訪問していました。当時痛感したのは「学部の講義で習った」ぐらいの知識では全く戦力にならないということでした。かろうじてデータ解析・プログラミングで少し役に立てた程度でしょうか。福田先生が若いころは電気生理用のアンプを自作することもあり、ちょっとしたものなら作れると聞いて驚いた記憶があります。また、「セットアップしてボタンを押したら何か測れる装置が増えて便利になってきたけれど、原理をよく理解して使わなければいけない」とも教わりました。私は現在リハビリテーションの領域でヒトを測る研究を進めていますが、学生を見ていると、データを解釈する際に対象の生理学的事象については思いが至っても測定装置の特性に思いが至らないことがあり、この教えの重要さが身に沁みます。学生や療法士の研究を指導する際に、福田先生の教えをどう伝えるか

に頭を悩ませる日々を過ごしています。

さて、Afternoon Teaのお題は自由と聞きましたので、私の趣味について少し紹介させていただきたいと思います。私は城の魅力に取りつかれておりまして、大阪城の隣にある小学校を受験するにあたり「お勉強を頑張って小学校に入れたら毎日大阪城が見られるよ！」と乗せられてしまった記憶がありますので、物心ついた頃には好きだった模様です（さすがに6年見続けると飽きました）。近年は日本城郭協会が定めた日本100名城のスタンプラリーをやっておりまして、旅行鞆にはスタンプ帳が忍ばせてあります。

天守はもちろん城の醍醐味のひとつではありますが、野面積（のづらづみ）、切込接（きりこみはぎ）といった石垣の積み方や、堀、曲輪（くるわ）を含めた位置関係（縄張）と、回りの地形を勘案して、攻めやすさ/攻めにくさを考察すると時間を忘れます。ただし、現在は当時と地形が変わってしまっていることも多く、当時の縄張も現存しているものよりずっと広いので、古地図を見た方がより正確な考察（？）ができますので、ぜひ資料館にも足をお運びください。

次回、2018年3月の日本生理学会大会は高松で開催ですね（本校執筆時2017年9月）。会場のサンポートホール高松は高松城の真横だそうです。高松城は堀に海の水を引き込んだ水城（海城）で、当時は水軍の出入りもあったと聞きます。想像し

ただけでもウキウキしてきますね！もし資料館で古地図を見てムフムフ言ってる気持ち悪い男がいたら、それはきっと私ですので、見つけたらこう

声をかけてやってください、「学会へ行け*」.

*行くとしても昼休みなどの合間です！（強調）.